

世界遺産地域候補（奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島）のOUV及び完全性に関する定性的な特徴

世界遺産地域候補		奄美大島	徳之島	沖縄島北部	西表島	
顕著で普遍的な価値	クライテリア(ix) 生態系	<ul style="list-style-type: none"> 大陸からの隔離の歴史が長く、固有種・遺存固有種が多い。 <ul style="list-style-type: none"> 特に奄美大島、徳之島、沖縄島北部の分散能力の低い非飛翔性陸生脊椎動物の多くは、遅くとも第四紀更新世の初期（約 200 万年前～170 万年前）までに大陸からの隔離が成立しており、隔離の歴史が長く遺存固有種が多い。代表的な遺存固有種は以下の通り。 				氷期終了後取り残された種がみられる。 <ul style="list-style-type: none"> 大陸からの隔離の歴史は長くないが、陸続きであった氷河期に奄美・琉球周辺に分布していた祖先種が、氷期終了後、標高の高い地域に取り残されたと考えられている固有のアサヒナキマダラセセリが、リュウキュウチクの生育する山頂部付近にのみ生息。
		共通の遺存固有種： ケナガネズミ、イボイモリ				
		アマミノクロウサギ、アマミトゲネズミ、ルリカケス、アマミイシカワガエル、オットンガエル、アマミデンダ	アマミノクロウサギ、トクノシマトゲネズミ、オビトカゲモドキ、トクノシマテンナンショウ	オキナワトゲネズミ、リュウキュウヤマガメ、クロイワトカゲモドキ、オキナワイシカワガエル、ホルストガエル、ナミエガエル、クニガミトンボソウ、オリヅルスミレ		
		<ul style="list-style-type: none"> 新固有の状態として種や亜種に分化した事例が島嶼間で豊富に見られる。 				
		アマミトゲネズミ アマミハナサキガエル	トクノシマトゲネズミ アマミハナサキガエル オビトカゲモドキ	オキナワトゲネズミ ハナサキガエル クロイワトカゲモドキ	オオハナサキガエル コガタハナサキガエル	
		<ul style="list-style-type: none"> WWF「地球上の生命を救うためのエコリージョン・グローバル 200」選定地域 この地域の森林生態系が WWF の「地球上の生命を救うためのエコリージョン・グローバル 200」に選定されている。特徴的な種は以下の通り。 				
		アマミノクロウサギ		ヤンバルクイナ、ノグチゲラ	イリオモテヤマネコ	
		<ul style="list-style-type: none"> Birdlife International の「固有鳥類生息地 (EBA)」及び「重要鳥類生息地 (IBA)」 Birdlife International が「固有鳥類生息地 (Endemic Bird Areas : EBA)」として候補地 4 島を含む「南西諸島」を、また「重要鳥類生息地 (Important Bird Areas : IBA)」として奄美大島と徳之島を含む「奄美諸島」及び沖縄島北部の「やんばる」を選定。選定基準となった「基準 A1ー生息地限定種 (Restricted-range species)」として、下記を挙げている。 				
		共通種： アマミヤマシギ、カラスバト、ズアカアオバト、アカヒゲ、イイジマムシクイ、リュウキュウコノハズク、リュウキュウサンショウクイ				
		ルリカケス、オオトラツグミ		ヤンバルクイナ、ノグチゲラ		
<ul style="list-style-type: none"> 世界の亜熱帯地域でも限られた地域にしか成立しない湿潤な亜熱帯多雨林が発達する。 世界の亜熱帯地域の大部分は、中緯度高圧帯にあたり、乾燥地が多く森林に乏しい。奄美・琉球はモンスーンや暖流の黒潮の影響を受けて、年間を通じて湿潤で、亜熱帯性の多雨林が成立し、数多くの固有種・希少種が生息・生育。熱帯では標高 1,000～3,000m の高標高地域に雲霧林が発達するが、奄美・琉球では海洋に囲まれた小島嶼であることを反映し、熱帯に比べ高緯度かつ低標高（500～700m）で雲霧林的特徴を有する森林が発達。 						
<ul style="list-style-type: none"> 溪流帯に特異に分布・分化した固有で希少な植物が数多く見られる。 集水域が比較的狭い島嶼であるにもかかわらず、頻りに降る雨によって、川岸には周期的に冠水する溪流帯が存在し、その水位の高低差は熱帯の規模にも近い。 						
アマミスミレ、ヒメミヤマコナスビ、アマミアワゴケ、アマミクサアジサイ、コビトホラシノブ、アマミデンダ、コケタンポポ、コバノアマミフユイチゴ、アマミカタバミ、アマミサンショウソウ	コケタンポポ	コケタンポポ、クニガミトンボソウ、ナガバハグマ、リュウキュウアセビ、オリヅルスミレ	ヒメホラシノブ、コケタンポポ、イリオモテトンボソウ、ヤエヤマスミレ			

世界遺産地域候補	奄美大島	徳之島	沖縄島北部	西表島
	<p>● 高次捕食者としての食肉性哺乳類や定住性大型猛禽類などを欠く、特異な生態系 奄美・琉球を構成する島々は島の規模が小さく、生態系の構成要素が少ない。奄美大島、徳之島、沖縄島北部では、大型食肉目や大型猛禽類などの高次捕食者がもともといないか、長期間欠落しており、ヘビ類や小型猛禽類などを頂点とする特異な食物網が構成されている。</p>			<p>● ネコ科動物が生息する世界で最小の島 西表島は他の島嶼と比較して、ネコ科動物が本来は生存出来ないほど島の規模が小さいにもかかわらず、イリオモテヤマネコが生息しており、その存在はネコ科動物が生息する世界で最小の島として、海外の哺乳類研究者の間でも有名である。餌となる在来の小型哺乳類が分布しないため、イリオモテヤマネコは食性の幅がネコ科の他種と比べ著しく広がっている等、小規模な島嶼における特異な生態系が構成されている。</p>
<p>クライテリア (x) 生物多様性</p>	<p>Conservation International の「Biodiversity Hotspots」 CI の Biodiversity Hotspots に日本列島が選定されており、その中で特に奄美・琉球について、絶滅のおそれのある固有種の生息地として評価。</p>			
	アマミノクロウサギ、ケナガネズミ	アマミノクロウサギ、ケナガネズミ	ケナガネズミ、ヤンバルクイナ、ノグチゲラ	イリオモテヤマネコ
	<p>Birdlife International の「重要鳥類生息地 (Important Bird Areas : IBA)」 奄美大島と徳之島を含む「奄美諸島」及び沖縄島北部の「やんばる」が選定されており、その選定基準「基準 A2ー世界的に絶滅が危惧される種」として下記の種が挙げられている。</p>			
	ルリカケス、オオトラツグミ、アマミヤマシギ	アマミヤマシギ	ヤンバルクイナ、ノグチゲラ、アマミヤマシギ	
	<p>● 温帯と亜熱帯の両方の特徴を持つ植物相 奄美・琉球の植物は、気候条件と多様な分散史を反映して、①奄美・琉球が大陸の東端をなしている時代から既に存在していたもの（本来の琉球要素）、②南中国方面から台湾を経由して侵入したもの（ユーラシア大陸島南部要素）、③一部日本本土から南下したもの（特に旧北区系の植物）、④マレーシア方面から台湾、特に東海岸沿いに北上してきたもの（マレーシア要素）、⑤パプア・メラネシア要素および豪州要素のように、東アジア、東南アジア及び大洋州の植物相が混合した特徴的な植物相を示している。候補地 4 島は、奄美・琉球の中では島の面積が大きく、発達した森林や渓流域など多様な環境要素を有するため、こうした多様な植物相の構成要素を一定程度まとめて有している。</p>			
<p>完全性</p>	<p>顕著で普遍的な価値で記述した固有な動植物と、その生息・生育を確保するための十分な亜熱帯林を含み、河川水系を通じて沿岸域の藻場、干潟、サンゴ礁に至る生態系の連続性を有し、上述の顕著で普遍的な価値を構成する要素のすべてを含むとともに、価値を維持するのに十分な範囲が包含されている。</p>			

